

**月例会ダイジェスト 【93】**

6月の月例会テーマは歯科チームのプロデュースによる「これからの産業歯科保健」。小林宏明氏(住友商事(株))、加藤元氏(日本アイ・ビー・エム健康保険組合)、生井登志子氏(公財・ライオン歯科衛生研究所)、村松淳氏(村松労働衛生コンサルタント事務所)がコーディネーターを担当した。

オムニバス講演の一番手を務めたのは、小林氏の「どうする歯科健診」。冒頭では医療費抑制などの観点から、政府が2022年の「骨太の方針」に「国民皆歯科健診の具体的な検討」を入れたことに触れ、2020年度の国民医療費の内訳では、歯科診療費が約3兆円(全体の約7%)、65歳未満では最も多い約1.8兆円だったことを統計資料で見せた。また、歯周病は20歳代から有病率が上がり、40歳前後から発症が集中することを示した研究報告のデータをもとに「若いうちから歯周病の予防をすることが大事だ」と述べた。

小林氏は「今後の歯科健診はAIを使った画像診断や、唾液などの簡易検査によるスクリーニング検査が目されるのではないか」という見方を示した。また歯科健診の目的については「疾患の予防と口腔機能の維持」に重点を置き「疾患を繰り返さないような保健指導を行うことや、歯の健康維持につながる行動変容を支援する必要があると思う」と話した。

続いて生井氏の「意外と知らない歯の疲労」が始まった。生井氏は「歯を失う原因は、“加齢”だけではない」として、その一つである「破折(歯根に亀裂が入る症状)」を挙げた。

特に根管治療で神経を抜いた歯はもろくなってしまうため、歯に強い圧力がかかると破折のリスクが高くなる。生井氏は「歯を食いしばったり、かみ締めたりする癖(Tooth Contacting Habit)がある人は、それだけ歯に負担がかかっている」と注意を促し、日中は舌を正しい位置に置いて上下の歯を離し歯や顎をリラックスさせる、就寝中はマウスピースを装着するなど、歯の負担を軽減する方法を説明した。

村松氏のテーマは「歯の酸蝕症とは 職場の人の歯が溶けている?」。歯が酸性度の高い物質に触れることでエナメル質からカルシウムが脱灰(溶出)して歯が溶ける「酸蝕症」について解説した。村松氏は「非職業性の酸蝕症は、飲食物や胃液が主な要因」と説明。市販のドリンク類をpHごとに分布させた図を見せ、ジュースやスポーツドリンク、ワインなど多くの飲料が歯の脱灰を引き起こすpH5.5以下であることを示した。村松氏は「唾液には口中を中性に戻し、歯の再石灰化を促す働きがある。食品で一時的に脱灰が起こっても過度に心配することはないが、酸蝕症が進むと知覚過敏になった

り、場所によってはむしろ歯ができやすくなったりする」と述べた。さらに酸性度の高い食品の摂取頻度を抑える、だらだら食べない、飲食後は口をゆすぐなどの予防法を挙げた。

最後に職業性の酸蝕症についても触れ、労働安全衛生法の改正により、有害業務を行う事業場での特殊健康診断の報告義務が、50人未満の事業場にも課されたことなどを説明した。

トリを務めた加藤氏は「咀嚼と全身の健康」と題して、咀嚼機能と健康との関連性を取り上げた。加藤氏は「平成29年国民健康・栄養調査」のデータをもとに、高齢者の3~4人に1人は「噛みづらい」と感じている実態を提示した。また、特定健診の間診で「噛みづらい」と感じている人の口腔状態(むし歯や歯周病、噛み合わせ)との間に、有意な関連性があることを述べた論文も紹介した。

加藤氏は「歯の本数が減って咀嚼障害になると、野菜や果物、肉類の摂取量が減り、穀類など炭水化物の摂取量が増える」と指摘。中年層では過栄養となりメタボに、そして高齢者の場合は低栄養に陥り、体力や筋力等が低下して転倒や認知症、要介護の発生リスクが高まることを説明した。特に咀嚼障害を持つ高齢者が高所などで作業する場合は、転倒や落下などに注意する必要があることも述べた。

咀嚼障害の対策としては、歯を抜けたままにさせないようにブリッジや義歯、インプラントで補完することを挙げた。また人前で義歯を外して洗浄する行為に抵抗を感じる人もいるため「人目を気にせずに入れ歯をケアできる洗面所の確保も、検討する必要があると思う」と、職場の環境面についても言及した。

その後「産業保健の中で、歯科に関する取組みは広がっているのか」という質問が紹介された。加藤氏は「健康保険組合(以下、健保)では、大手を中心に約30%が歯科健診・歯科保健指導を行っており、今後も健保が実施する歯科健診は増えてくると考えている。ただ産業保健にとって、いきなり歯科健診を導入するのはハードルが高いと思う。例えば衛生委員会で歯の話題を出してみるなど“入り口”は幅広くあると思うので、そこから歯科教育を広げていければいいのではないか」と答えた。

最後に福田氏が「今回共有できた知見やアイデアを現場に持ち帰り、自分たちで情報発信をやってみる、AIの画像診断や唾液チェッカーなどのツールを使った簡易検査を提案してみるなど、産業保健活動の中で歯科を取り入れる方法は、いろいろ考えられることが分かったと思う」と総括して、月例会は終了した。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <http://sanpokai.umin.jp>
- FBページ <http://www.facebook.com/sanpokai>